

自己評価表

愛媛県立宇和特別支援学校(知的障がい部門)

教育方針	1 心身の調和的発達を図り、健康で明るい人間を育てる。 2 地域社会との触れ合いを深め、情豊かなたくましい人間を育てる。 3 社会生活や家庭生活に必要な態度や能力を養い、勤労を尊ぶ人間を育てる。 4 保護者・児童生徒からの要請に基づいた合理的配慮の提供に努力する。	重点目標	地域社会の未来を自分らしく生き抜く力の育成 — 瞳輝き、心つながる自己実現を目指して — ① コミュニケーション力 【伝える力(表現力)】自分の気持ちや考えを表現し、伝える力を育む 【感じる力(共感力)】相手の気持ちや思いを肌で感じる感性を育む ② 自己肯定力:達成感を積み重ねることで、自信を育む ③ 挑戦力:自ら主体的に考え行動し、根気強くチャレンジする力を育む ④ 生活力:社会の中で自立して豊かに生きていくための力を育む
------	---	------	---

領域	評価項目 (マニフェスト関連)	具体的目標	評価 (A~E)	目標の達成状況	次年度の改善方針
学習指導	学習指導の充実 (分かる授業)	効果的な教材教具の作成や学習系Wi-Fiを利用した情報通信機器(パソコンやタブレット端末等)を <b>効果的に</b> 活用して、 <b>児童生徒の発達段階に応じた指導方法を工夫し、授業改善に取り組む。</b>	B	・実態や指導内容に応じたアプリ等を活用した授業を行った。児童生徒の関心も高く、主体的に学習に取り組んでいる。	・教職員間で有効なアプリや活用の仕方を共有し、児童生徒が主体的に学べる授業をより推進する。
学習指導	専門性の向上 (専門性)	認定講習の受講促進や、特別支援教育に関する研修の積極的な情報提供を通して、専門性向上の機会を確保する。校内の教員の教育実践を見聞させる場を設定して、学校全体で共有することで、各教員のスキル向上を目指す。	B	・教員1名が新しい免許を取得した。 ・研修の情報提供をしても、どの部も参加する余裕がないため、専門性向上の機会を確保するのが難しい。 ・部研と事例研究会で共通のテーマを設定して、様々な事例について話し合う場を設けた。	・認定講習受講を継続して勤め専門性の向上を目指す。 ・年間2、3人は指名して、キャリアに応じた研修に参加できるようにする。 ・多様なニーズに対応するための専門性について研修を実施する必要がある。
生徒指導	生活指導の充実 (挨拶)	個に応じた表現方法を具体的に示し、 <b>自ら</b> 気持ちの良い挨拶を交わす生活習慣を育成する。	B	・学校生活全体の様々な機会を通して、児童生徒の個に応じた表現方法で繰り返し挨拶をすることで習慣化し、自ら声を出したり頭を下げたりして挨拶をする児童生徒も増えた。	・学校生活の様々な場面で、場にふさわしい挨拶を示し、さらに習慣化につなげる。 ・各部ごとに、同じ意識で指導に当たれるよう、教職員での共通理解を図る。
生徒指導	集団活動の充実 (人間関係)	集団や場の工夫によりコミュニケーションスキルの向上を図る。また、係活動の充実を図り、責任感や自己有用感を高める。	B	・個に応じた集団活動への参加の仕方を工夫しながら、適切なコミュニケーションスキルの向上に努めた。児童生徒の実態に応じながら、係活動に継続的に取り組むことで、自分の役割を自覚して進んで活動するようになった。	・様々な場面で、社会性を養うようにし、集団活動においても、自ら考えて行動できるような、言葉掛けや支援を考え、実践する。 ・演劇鑑賞や体験学習等から、児童生徒の変化や成長過程を通して、コミュニケーションの在り方を考えていく。
進路指導	進路指導の充実 (キャリア教育)	進路に関する研修の実施や進路だよりなどの配布を行い、卒業後の生活が見通せる情報提供に努め、ニーズに応じた進路選択、進路実現を図る。	B	・進路懇談会や就労についての学習会を開催し、保護者に対し進路に関する情報提供に努めた。 ・進路だよりを年間4回発行し、進路についての情報提供と理解啓発に努めた。 ・市町の福祉担当課や相談支援専門員と連携し生徒や保護者のニーズに応じた進路指導に努めた。	・引き続き進路に関する情報提供に努め、希望に応じた進路開拓を行う。
進路指導	地域センター的機能の充実 (センター的機能・共生社会への理解啓発)	特別支援教育コーディネーターを中心に内部人材も活用しながら、外部支援・相談に応じる。	B	・外部支援について、各部位体験入学時の相談等中心に校内の人材活用を行ってきたが、やはり多くはコーディネーターが担当をしている。コロナ禍前の相談件数に戻つつあることもあり、より一層人員の確保が必要である。特別支援教育のミニ研修や研修課との共同で行う研修会等を活用し、全体への理解啓発や専門性の向上に努めた。	・体験入学を中心に、校内の人材活用を引き続き行い、市町が開催する会議や教育相談にもコーディネーター以外の教員の担当を検討する。また、担当者対象の研修を実施したり、資料を準備したりして、対応ができるよう配慮する。依頼先に訪問しての相談に数を絞りつつ複数で対応をする。
センター的機能	学校行事等の魅力ある活動や、障がいのある児童生徒を支援する具体的な活動の様子をホームページや公開授業などで積極的に情報発信する。ホームページは、週に1つ以上ブログをアップする。	愛顔(えがお)のえひめ特別支援学校技能検定で、1級取得者数20%以上を目指す。評価基準(A:20%以上、B:18%以上、C:16%以上、D:14%以上、E:14%未満)	A	・技能検定1級所得者数28%と目標とした20%以上を達成し、過去最高の成績となった。	・1級は取れなかったが、1級の実力のある生徒も多い。キャリアトレーニングを通して更なるスキルアップを目指す。
センター的機能	学校行事等の魅力ある活動や、障がいのある児童生徒を支援する具体的な活動の様子をホームページや公開授業などで積極的に情報発信する。ホームページは、週に1つ以上ブログをアップする。	特別支援教育コーディネーターを中心に内部人材も活用しながら、外部支援・相談に応じる。	B	・外部支援について、各部位体験入学時の相談等中心に校内の人材活用を行ってきたが、やはり多くはコーディネーターが担当をしている。コロナ禍前の相談件数に戻つつあることもあり、より一層人員の確保が必要である。特別支援教育のミニ研修や研修課との共同で行う研修会等を活用し、全体への理解啓発や専門性の向上に努めた。	・体験入学を中心に、校内の人材活用を引き続き行い、市町が開催する会議や教育相談にもコーディネーター以外の教員の担当を検討する。また、担当者対象の研修を実施したり、資料を準備したりして、対応ができるよう配慮する。依頼先に訪問しての相談に数を絞りつつ複数で対応をする。
学校安全	安全教育の充実 (安全・防災教育)	<b>ヒヤリ・ハット事例の周知徹底と確実な事例記入により情報を共有し、事故防止につなげる。</b> また、防災マニュアルの見直しを行い、事故の未然防止の意識や対応力を高める。 施設・設備点検を月1回実施する。	B	・実際の場面を想像し、現状に即しているかに焦点を当て、防災マニュアルの見直しを行った。月一度の施設・設備点検を継続して行った。	・月一度の安全点検において、緊急性の度合いによって修理箇所の優先順位を付け、速やかに修繕に努める。 ・教職員が活用しやすいマニュアルになるよう、見直しを継続する。
学校安全	自らの命を守る行動が主体的に行えるように、様々な事態を想定し、実践的・現実的な防災訓練を月1回程度実施する。 <b>マンネリ化しないよう工夫を凝らす。</b>	時間外勤務は、上限を月45時間以内とする。 評価基準(A:80%以上、B:75%以上、C:70%以上、D:65%以上、E:65%未満)	B	・実践的・現実的な防災訓練を実施できた。退避訓練のみでなく、備蓄水や防災グッズ等の紹介や保管場所の提示をし、生徒・職員との共通理解が得られた。生徒の評価も高い評価を得られた。	・地震等の災害時に、数日間の校内での避難を想定した取り組みも考えていく必要がある。例えば、個人スペースの確保(パーティション、簡易ベット、使用できる教室の割り振り、炊き出し等)を視野に入れて取り組む。
その他	働きがいのある職場環境の充実 (教職員の働き方)	時間外勤務は、上限を月45時間以内とする。 評価基準(A:80%以上、B:75%以上、C:70%以上、D:65%以上、E:65%未満)	A	・時間外勤務45時間以内の割合は、86%である。 ・月別人数では4月と5月が23人と最も多く、8月が0人で最も少ない。 ・超過時間の平均は1時間3分である。	・80時間を超える人に偏りがある。ミドルリーダーである場合が多いので、仕事の分散を図る。 ・年次休暇・特別休暇・育児休暇の取得やテレワークの推奨など、ワークライフバランスについて研究する。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。